

令和6年度 大田区立入新井第二小学校経営計画

校長 田嶋 秀明

★入新井第二小学校 教育目標★

考える子（重点）

基礎・基本を身に付け、意欲的に学ぶ子
よく考え、自ら判断し、行動できる子
課題解決に向かって、最後まで取り組む子

健康な子

自ら進んで体を鍛え、外遊びを楽しむ子
友達と仲良く、生き生きと活動する子
望ましい生活習慣を身に付け、よく働く子

やさしい子

相手を思いやり、差別を許さない子
人とのかかわりを大切に、明るく挨拶する子
自然に親しみ、心豊かに感動できる子

1. 目指す学校像（教育目標とのかかわり）

◎学力・心・身体がバランスよく成長している健康な子どもが育つ学校

・子どもたちが基礎・基本の学力を着実に身に付けることができる学校

・子どもたちが基本的な生活習慣を身に付け、健康で生き生きと活動できる学校

・子どもたちが温かい人間関係を築き、心身ともに安心して生活することができる学校

2. 具体的な方策

◎コミュニティ・スクールの構築

- ・コミュニティ・スクールとして、学校と地域が協働して子どもたちのために教育環境を整え「地域とともにある学校」を目指す。

I 学力の向上

① 学級経営の充実

- ・学校目標を踏まえ「学級目標」を設定し、その達成のために発達段階に応じた具体的な手立てを計画・実践していく。
- ・教室（掲示物・学級文庫など）を整えることにより、学習に集中できる環境をつくる。
- ・学習規律「入ニスタイル」を徹底し、安心して学べる空間をつくる

② 指導の工夫

- ・すべての児童にとって「分かる・できる」授業を目指して、ユニバーサルデザインや個別の支援の視点を取り入れた授業づくりを進める。また、MIM-PMの実施等、アセスメントを活用した実態把握を生かした指導を行う。
- ・全学年で算数習熟度別少人数指導を行う。個に応じた学習を推進するとともに、数学的な考え方の基礎を中心とした考える力と解決する意欲の育成を進める。
- ・大田区漢字検定や東京ベーシックドリルに、全校統一した取り組みを実施し、家庭と連携した計画的な事前練習を行うことで、基礎・基本の着実な定着に努める。
- ・大田区外国語活動の時間の充実を図り、英語に親しみをもって関れるようにする。
- ・授業改善プランを活用して各学年の重点を設定し、具体的な指導の改善に努める。
- ・校内研修を通して、ICT活用力も含めた授業力の向上を図る。OJTによる研修を推進する。（校内研、OJT研、2、3年次研、中堅研修、教育実習等あらゆる場を研修の場ととらえる）

- ③ 基礎・基本の学習の定着
 - ・算数ステップ学習（タブレット）の着実な実施・チェックシートの活用。
 - ・ノート指導を丁寧に行い、基礎・基本の学習の定着を図る。
 - ・水曜日の放課後に学習指導講師がプリントを活用して行う補習教室を実施し、基礎・基本の学力の向上を図る。
- ④ 表現力の向上
 - ・各学級で朝の会等にスピーチ活動に積極的に取り組むとともに、学校公開（1月）で行う学級単位のスピーチ大会の実施を通して、話す力を中心とした表現力の育成に努める。
- ⑤ 読書力の向上
 - ・朝の「読書タイム（火・木）」を中心として、読書の習慣化を図る。また、児童の興味・関心を高め読書力の向上を図る。学校図書館の有効活用を図るため、読書学習司書を活用し、読書環境の充実を図る。校内研究との関連も重視していく。

Ⅱ 人間力の向上

- ① かかわる力の育成
 - ・朝の時間（金曜日）を「学級の時間」とし、児童と教員が関わりながらいじめのない良い学級を構築していく。
 - ・入二タイムでの縦割り班遊びや縦割り給食の実施等を通して、異学年交流の時間を十分に確保し、多様なかかわりの中で信頼や思いやりの心の醸成に努める。
 - ・朝の校庭開放・中休み・昼休みにおいて遊びを通じた人間関係作りを推進する。また、水曜日の朝の活動にふれあいタイムを設定し、全校児童とともに教員も共に遊びや運動をする時間とすることで、児童同士や児童と教員とのふれあいの時間を確保し、かかわる力の育成を図る。
- ② 大田区人権教育研究協力校としての活動の充実
 - ・地域の福祉施設・高齢者施設、団体等との連携を深めるとともに、体験的・具体的な活動を重視し、具体的な体験やかかわりを通じた人権教育を推進する。
 - ・各学年の人権にかかわる学習・活動の内容や作品を「地域で考える人権展」において展示・紹介するとともに、近隣の幼稚園・保育園や小中学校、福祉園にも出品を依頼、展示し、地域・保護者に公開することで、共に人権について考える機会とする。
- ③ 保幼小連携・小中一貫教育の推進
 - ・大森三中・山王小・入四小との連携を推進し、授業公開や情報交換を通して、学習内容や指導法、また生活指導における指導方針等について、一貫性・系統性をもたせ滑らかな接続ができるようにする。今年度は学力の向上をテーマとする。
 - ・近隣幼稚園・保育園と学校行事を中心に連携を深めるとともに、共通単元での学習計画を立て実践することを通して、保幼小の滑らかな接続ができるように努める。
 - ・小学校支援活動の協力校として、保・幼・小の連携を深めていく。

Ⅲ 心と身体の健康の向上

- ① 健康・生活リズム作り
 - ・朝の校庭開放とふれあいタイム（運動・遊び）の実施により、児童の頭と身体が目覚めを促すとともに、生活時程を工夫し生き生きと生活・学習できるようにする。
 - ・保健指導の充実を図る。（歯の健康 からだの学習 薬物乱用防止 等）
 - ・「早寝・早起き・朝ごはん月間」では、児童のスポーツイベントや保護者アンケート等を通して、基本的な生活習慣定着への児童・保護者の意識の向上を図る。
 - ・食育を年間計画に基づいて全学年で推進し、健全な食生活を送る素地を育てる。
- ② 体力の向上
 - ・新校舎改築工事を踏まえ、生活時程を工夫し、児童の体力維持のために年間を通してなわとび運動を行う。
 - ・体育集会やふれあいタイムを通して、マラソンやなわとびなどの運動や、新たな運動や遊びを紹介する機会とする。児童の運動への興味・関心を高め、体力向上の取り組みの一層の充実を図る。
- ③ 生活指導の充実

- ・生活規律の徹底を図る。全教職員が共通ルールのもとに児童に対して共通の指導を行う。学期に一度、入二スタイル週間を実施し、指導の重点化を図る。また学校・学級のきまりの視覚化を図ることで分かりやすくし、守りやすい環境を作る。
 - ・全教職員で児童理解を図り、スクールカウンセラーと連携しながら、いじめ、不登校の未然防止・解消に努める。またケース会議を開き、個の課題に応じた指導を検討し、全教職員で推進する。
- ④ 一人ひとりに向き合う教育の推進
- ・特別支援コーディネーターを中心にスクールカウンセラーや関係諸機関との連携を図りながら、教職員全員による支援体制を作り、特別支援教育の充実を図る。
 - ・個々の児童の状況に対応できるよう、保護者と連携して学校生活支援シートを作成して指導に当たるとともに、スクールカウンセラー、学校特別支援員等の活用を図る。また、連携型個別指導計画を作成し、サポートルームとの連携した指導を進める。
 - ・いじめに関するアンケートを行い、必要に応じて面談を実施する。状況や課題に向き合う教育を推進する。
 - ・「いじめ撲滅宣言」を実施し、いじめは絶対に許さないという校風を創る。
 - ・「オアシス会」「不登校対策委員会」を充実させ、サポートルームと通常学級との連携を深めたり、ひまわりルームや登校支援を活用したりして、見守りや支援が必要な児童に対する指導の方針や内容を検討し全教職員共通理解の上で支援を行う。
- ⑤ 安全な環境作り
- ・防犯ブザー携帯の徹底「大田区安全安心メール」への登録率の向上と活用を図る。
 - ・防犯・セーフティ・交通安全教室、携帯教室等を実施する。さらにSNS入二小ルールの周知を図り、発達段階に応じた指導を行う。また自転車の安全な乗り方を重点とし自転車教室を実施する。
 - ・児童の安全を第一に、校内施設・設備の安全点検を毎月実施し、改善の徹底を図る。地域の安全マップの作成や教員による地域巡り（学期に一度）を実施する。

IV 保護者・地域と連携した教育の推進

- ・学校・家庭・地域が繋がり、学校を核としたコミュニティ・スクールを構築し、地域の人材を活用した支援（ボランティア団体「チーム入二」）を行い、子どもたちが持続可能な教育活動を行うことができるようにする。
- ・大田区独自教科新設に向けて、教科「おおたの未来づくり」の年間指導計画の作成を行い、「A：ものづくり」「B：地域の創生」につながる教育課程の研究を行う。
- ・学校公開日や道徳授業地区公開講座を週休日に行うことや、個人面談・保護者会の充実を図ることにより、地域・保護者との相互理解・信頼を育み、授業への参画等も含め、連携した教育の推進に努める。
- ・学校だよりやホームページ等による教育内容の積極的な情報発信により、保護者や地域から学校の教育活動に対する理解と協力を得られるようにする。
- ・新校舎改築事業に伴い、学校の教育活動に支障がでないように、大田区や近隣の学校と協力しながら教育活動を推進していく。